

## 小城市行政改革推進委員会が開催されました

令和2年7月29日（水）に令和2年度第1回小城市行政改革推進委員会が開催されました。今回の委員会では第4次小城市行政改革プランの取組状況について事務局から説明が行われた後、委員による質疑応答が行われました。

### 《議事》

(1) 議題：第4次行政改革プラン（令和元年度）取組概要及び各取り組みについて

- ・事務局より資料の説明
- ・質疑応答

#### 【委員質問】

この、表記の仕方、到達度、進捗の表現の仕方ですけれども、確認しておきたいのですが、何も記入されていないところは、要するに、まだ、計画がされていないということですか。要するに実施年度に到達していないということですか。

#### 【事務局回答】

取り組む項目・実施スケジュールのところですが、目標の部分に黄色の色がついているところは、この時期に実施をしたいということで計画をしているところです。そして実績の欄の赤色の色がついているところは、実際に実施ができたところです。赤色がないところは、実施ができてないということになります。

#### 【委員質問】

凡例が三つしかないのですか。1、2以外の空欄はっていうのをに入れていただければ、わかりやすいと思います。

#### 【事務局回答】

はい。わかりました。進捗度のところですね。

#### 【委員質問】

資料の3ページの勤務環境の整備のところでは幾つかお尋ねです。先ほど説明の中で、庁内システムの検討という説明がありましたが、庶務事務システムの導入について、もうすこし具体的な内容を詳しく教えて欲しいことが一点と、時間外については、昨年からの災害対応

や、コロナ対応で減る要素はないだろうなと思っております。そういったときに、通常業務もあって時間外が増えることは仕方がないかと思いますが、何か工夫をされていることを教えていただきたい。もう一つ、災害ぬきで通常業務のときに、対前年度で、時間外がどうなのか、もう少し詳しく教えていただきたいと思えます。

#### 【執行部回答】

初めに、庶務事務システムのことについて、昨年の取り組みにつきましては、既存のシステムの中に、Webシステムというものもあります。その中にQ&Aで、質問を受けてそれを回答するというシステムを利用して、効率的なやりとりを全職員が見ることができるという、例えば去年で言いますと、会計年度任用職員の、こういったことに取り組んだということとを全職員自体説明会をする中での、今後予算だとか保守をやっていく担当課の方で、どのようなやり方がいいのかとか、これでいいのかとか、やりとりをWebシステムを使って活用できたということが去年の実績です。それと、その庶務事務システムにつきましては、ペーパーレス化、あとは、印鑑を不要とする電子決済、そういうものを含めて検討ができたかと考えているところでございます。

それと2点目の時間外につきましては、やはり、去年の8月末の豪雨災害による被害による時間外勤務が出ています。今までに経験のない浸水被害になりましたので、現場の確認、それと罹災証明、そういう事務作業が新たにでております。職員自体も新たな取り組みにより、時間外が発生し、また受付事務作業、それに対応する作業が出ています。それと、通常行っている、工事関係の災害ですが、これも量が多く、今年度になっても発注をしている状況です。繰り越しですね。そういう状況で大きく時間が増えている要因と、コロナの影響ですね、2月末ぐらいから発生しましたので、それに対応するための、新たな時間外というものも出てくる要因もあると思えます。

3番目の災害抜きの時間外ですが、そこまでは今手持ちで準備をしていないところで、申し訳ございません。

#### 【委員質問】

一応、分類がされているということなのでしょうか。

#### 【執行部回答】

そうですね、そこまで分類ができていのかどうか確認する必要がありますけれども、時間外につきましても、毎月、各部署から総務の方に上がっています。ただその集計の仕方につきましても、ペーパーの集計によるものなので、それを細かく集計するとなると、その日その日に、一人一人が業務した、残業した内容。そういうものを把握しないと、災害による時間外の把握はちょっと困難かなと。ただ、単純に、それ以外で、防災対策課の方で、水防配備にはいるときなどは、防災対策課より特別に時間外を支払うようにしていますので、その

部分については、すぐに把握は可能だと思っております。ただし去年の8月、9月前に、補正予算を組みまして、防災対策課は時間外の増加を行っている状況でございます。

**【委員質問】**

それでは、各ページに職員事務従事時間が書きだされていますが、これはその業務に従事した時間と思いますが、ここの積算ってというのは、担当者の業務割合で積算されているということなのでしょうか。

**【執行部回答】**

時間外のマイナスの数字の部分でしょうか。

**【委員質問】**

①全体事業費と②職員事務従事時間というような、時間数を細かく、例えばこの3ページでいくと141時間っていう、この時間の割り出し方ってというのは・・・

**【執行部回答】**

この部分はですね、この勤務環境の整備ということで、これに要した時間と、担当の総務の職員と理解いただきたいと思います。

実際の時間外の部分の指標としましては、一番下のところの黒三角で表示している部分が全体的な時間が増えていることによって、マイナス判定となった部分になります。

**【委員質問】**

先ほどのお答えで再度お尋ねですけど、Q&Aのシステムというのはチャットボットのようなものですか。

**【執行部回答】**

Q&Aのシステムの話ですね。そういわれるとチャットのようなものかと思えます。

**【委員質問】**

職員が何かわからないところをお尋ねする。その返答は、すぐに帰ってくるのですか

**【執行部回答】**

それを確認できた担当の職員が、それを見て入力すれば、すばやく返答することができます。

**【委員質問】**

どちらかという、メールで受付けてメールで回答するようなイメージですか。

**【執行部回答】**

そうですね。メールで受付してメールで回答するというやり方になりますと、一対一のやりとりになりますので、そのやりとりが全員で見られる仕組みになります。

**【委員質問】**

すみません。それで、2番目の回答ですが、新しい業務が出てきて、1人の力ではできない部分や、各課では賄えてない部分があると思いますけど、その時に、例えば課を超えた動員や、その課での平準化などの工夫をどういう形でなされたのかお尋ねしたかった。

**【執行部回答】**

それを申しますと昨年の災害によって、新たな証明関係が発生するということですが、そういうケースにつきましては、今までの災害対応にあるマニュアルとかがあると、その通りに行うのですが、昨年の場合には、会議などを行って、どこの部署がどのようなことを行っていくかというのを取り決めて行っています。特に今年のコロナについても、いろいろな分野で、市民の支援、企業の支援という部分がありますので、今年の設定額給付金の場合については、一つの課ではなく、総務部全体での体制によって、事業をおこなっているという状況でございます。

**【委員質問】**

わかりました。ありがとうございました。

**【委員質問】**

この資料、私、読ませていただいて、正直よくわからないところがございまして、以前もお話させていただいたかと記憶しているのですが、この改革による効果ですが、数値的に把握できるものは記載されてありますが、そうではなく定性的なものです。例えば、1ページ目で言いましたら、人事評価の面で、研修等を行った。その結果、例えば、統一した視点で評価できるようになったとか、或いは課題としてやっぱり人としてムラがあるなどかいうことを記載していただいたら、大変助かるなと思っております。

**【執行部回答】**

やはりまだ人事評価でも今おっしゃられたように、個人差の部分がある分もございまして。それと評価の結果を段階的に整理をしていますが、その上中下とか分けた場合に、上が何%ぐらいだったのか、そのあたりを評価に入れたほうがいいのか迷いもあって、言葉的に、効果を書いているような状況でございまして。上中下の評価があったほうが良ければ今後検討したいと思

います。

**【委員質問】**

数字に見えない効果と、あと将来の課題みたいなものがあれば、今後の改善点が見えていくのではないかと思いましたが。

**【執行部回答】**

はい。わかりました。ちょっと検討させていただきたいと思います。

**【事務局回答】**

委員さんの方から言われたことが全体的なものにもなると思いますので、来年度以降プランの効果が数値的に表せないものについては、文章で表せるような形で、検討していきたいと思います。

**【委員質問】**

ぜひそこで、今後の課題を入れていただけたら助かると思います。

**【事務局回答】**

はい、わかりました。ありがとうございます。

**【会長】**

他にございますか。委員の方から質問された内容っていうのは、結構大事な点を含んでいると思います。これは何かと申しますと、実は私どもが行っている他の事業で、外部評価を受けるときに、やはり強く指摘されたことがあって、コロナのせいにするな、自然災害のせいにするな、それで、やはり何らかの計画を作って前へ進もうとしているのであれば、そこを説明できるような形で、或いは、もしできるならば、計画を最初から、少し変更するぐらいの気持ちで、取り組んで欲しいという強い外部の意見を聞きました。やはり、この大変な時期で、事務量多くて、そこまで手が回らないっていうのはあるかもしれませんが、最終的には、説明責任が発生してくると思いますので、災害に要した特別な時間や、特別な支出などそういうものは切り分けて、通常部分はきちんと行っているということを、説明できるようにしておいた方が、いいのではないかと思いますので、大変ですが、ぜひ頑張ってくださいと思います。

それでは、2のカテゴリーに移りたいと思います。行政改革推進の部分に関して、ご質問等ございましたら、ぜひよろしく願いいたします。

**【委員質問】**

8 ページの、昨年提案をして審査をおこなった結果、優秀賞1点、努力賞1点ということで、これがどういうものだったのか、実際にどういうふうにかけることができたのかお尋ねしたいのと、昨年のこの行革の実績報告のときに、職員提案方式について見直しを行ったというような発言があったと思いますが、書類で申請する形からプレゼン方式ということだったが、先ほどの説明で、また仕組みの見直しということもありましたが、それにより何かしらの課題があったのか、またどういうふうに検討されているのか、教えてください。

**【執行部回答】**

企画政策課の方から、お答えをしたいと思います。7件の提案があり、優秀賞については、「工事検査の評定結果に伴う業者の表彰及び表彰工事のプレゼンテーション」という内容でした。全体的なことになりなすが、提案があった内容については、以前は書類審査だけでしたが、今回は実際に提案された方にプレゼンテーションを行ってもらい質疑応答も受け審査を行いました。そして、点数付けをして、優秀賞、努力賞を決定したところです。また、優秀賞だけでなく、すべての提案に対して、担当課の方から、実際に改革改善ができるのかどうか、また改革改善ができるとすればどういったスケジュールで実施していけるのか、対処方針をだしてもらいました。それで優秀賞については、今年令和2年度について、評定の制度と、標準化のための職員研修等を行いたい。開始予定は令和3年度以降に実施をしていきたいという方針をいただいております。その他、提案の中には、繁忙期の部署で、他部署からの派遣という内容もありました。そういった内容については、プランの中でも取り組む内容になっていましたので、3番目の人材育成の推進、③勤務環境の整備、実施スケジュールのエ、事務応援制度の検討、などで検討することになっていましたので、できるものについては、原課で検討してもらっているところです。

**【委員質問】**

この提案で、業務の改善とか、ものすごく見込めるとか、時間が縮小されるとか、なにかそういうものがあったら教えていただけますでしょうか。

**【執行部回答】**

提案をもらった分については、時間の短縮に結びつけられるような提案はなかったかと思っています。業務の改善内容が主だったと思います。

**【委員質問】**

ありがとうございます。

**【会長】**

はい。他にございますか。

**【委員質問】**

5 ページ。民間活力の導入というところで、先進自治体の職員による職員研修を実施したということですが、どこの自治体のどの取り組みを、どういう範囲で実施されたのかということをご教えてください。

**【執行部回答】**

福岡市の職員の方で、国土交通省のPPPサポーター制度の派遣サポート制度を活用して研修を行いました。今後、PPP・PFIの導入等を考えている課の職員等に対して研修を行いました。

**【委員質問】**

ありがとうございます。

**【会長】**

ご質問がございませうか。はい、お願いします。

**【委員質問】**

8 ページの、行革提案の件ですが、この提案書は、今後も続けられるのかどうかと、今回7件の提案があったと思いますが、これを、土木のほうを評価されているのか、件数的に、多かったのか少なかったのか、或いはこれを今後、ふやすにはどういうやり方をやったら、増やせるのかとか、そういったことを考えてあるのかどうかとか、教えていただけませんか。

**【執行部回答】**

ありがとうございます。7件について提案がありましたが、若い主事級の職員から、課長級の職員までいろいろな業務改善についての提案をもらったところですが、合併当初は、職員提案を3年ぐらい続けておりました。文書による提案を受付けていまして、件数的にはたくさんの方の提案を頂いていました。合併当初に比べて、事務の改革改善が進んでいるということもあって、今回は以前より少ない提案件数になっているように思います。職員提案という形で、職員の皆さんが、業務をどういった形で改革改善できるのかを考えることは、いい機会だと思っています。やり方等について、いくらから見直していく必要も何かあるかと思いますが、今年も続けて実施していきたいと思っています。

件数を増やすための取り組みについてですが、先ほど言いましたように、合併当初、事務の効率化ということで提案をうけ、改革改善が進んできているため提案件数が少なくなったという見方もできるかと思っています。職員に掲示板等で周知をして、昨年度は実施をしました。職員提案を久しぶりに実施し、職員の皆さんに周知し表彰したということで、職員の方に、

職員提案の制度があるということを理解していただいたかと思うので、今後、職員の皆さんからより多くの提案ができるように周知を行っていきたいと思います。

**【委員質問】**

今の話の内容について少し気になったことがあります。表彰されるということで、積極的に考えていくっていう、その個々の職員さんのやる気などにつながるとは思いますが、この優秀賞取ったことで、逆に、優秀賞取ったから、全庁的にそこを積極的に何かしていこうとかいうことがなければ、何となく、また、提案をした課に、そしたらどうやってやるの、何かどうするのっていうのが、戻ってきて、ちょっと仕事が増えてしまうのかなっていう、非常に後ろ向きな意見なのですけれども、そういう印象を少し、実は受けています。実際にその賞を頂いたものについては、庁として全体として取り組んでいくので、何か、そういったサポートなり何とかなるとかそういうようなことが、今のところはどうなんしょうか。

**【執行部回答】**

今回の優秀賞の部分については、原課の方も、提案のような形で事業実施できればと考えてありましたので、今後どういった形で進めていくか方針をもらっています。

賞を取ったから積極的に実施できるかということですが、今後実施をしていく中で、費用対効果等をもって、実施できるのかどうかは、庁内で検討していく必要があると思っております。

**【委員質問】**

これですね、個人的にはやって欲しくはないのですけれども、一生懸命頑張る職員を評価するっていう、その評価との連動性、インセンティブとかは、ないのですか。

**【執行部回答】**

そうですね、表彰をする点数づけについては問題意識や、費用対効果、現実性、というところで点数付けをしています。人事評価の方には結びついていない状況です。

**【執行部回答】**

今の会長の質問の答えになるのかわかりませんが、このような職員提案について、自分が今行っている仕事をどういうふうに改革改善していこうかという、そういう知恵を絞って提案をするという前向きな気持ちが職員にとっては非常に大事なことだと私は思っております。ただそれをやって、その人事評価にどうふうにつなげていくかということは、今のところは数字的に、そういった対応、そういった評価というのは表にでていませんけれども、やはり我々としてはそのようなやる気のある職員は、他の職員にも大きな影響及ぼすものでもあります。ですからそういった意味でも、しっかりこの人事評価を我々の中では、しっかりやっ

ていきながら適材適所という形で、役割をはたしてもらいたいという気持ちは持っておりますので、それはしっかり、評価につながっていると思っております。以上です。

**【委員質問】**

どうもありがとうございました。よくわかりました。大学の教員は（評価は）やられているので、見えないところの仕事が、全然点数になってないので、やり損になったらかわいそうだなと、あえてちょっとこんな質問をしました。

はい、ほかに質問はありませんか。それではちょっと時間も迫っていますので、3番の健全な財政運営の推進の部分でございましたらお願いします。

**【委員質問】**

では、プラン12の収納率の向上・滞納整理の強化、は滞納処分を執行したということですが、ここに金銭的效果として金額が出ているのですが、どのようにみたらいいのですか。

**【事務局回答】**

12 ページの収納率の向上・滞納整理の体制の強化ですね。一番下の改革による効果の金銭的效果のところの収納率向上による前年度との比較と市税等滞納整理による取立額を足した金額になっております。

**【委員質問】**

つまり、その金額は何かというと、滞納額等の取立てだったときに、何%ぐらいそれが推移したのかを知りたいのではないかと思います。例えば前年度に対して何%減ったっていうのはわかるのですが、納得できる説明、お願いします。

**【執行部回答】**

前年度との比較っていうのは、一概にちょっと推し量ることはできないのですが、例えば、下段の方で市税の滞納整理による取り立て額ということで、2614万2000円ございます。これにつきましては、率換算というのが、なかなか難しいのですが、差し押さえをした時の滞納の分母が1億8500万ございます。そのうち、差し押さえをした時の滞納額のうち、取立できた額が2614万2000ということで、毎年度毎年度この差し押さえをするときの全額数が変わっていますので、必ずしもその前年度での上げ下げで比較考量するのはなかなか推し量ることはできないというものが、まず1点ございます。上の徴収率の向上による前年度との比較につきましても前年度の徴収した額との比較も推し量るのはなかなか、数字で表しているのが非常におしはかりにくいです。むしろ率換算しておれば、比較考量はできたのかなと。単年度ごとにみていただきたいと思っております。以上です。

**【委員質問】**

できたら、率換算していただいた方が、実績としては上がってくるかもしれないですね。

**【執行部回答】**

ご指摘の通り、もともと当初の改革プランを作る時に、率換算を出してなかったことで、今までこの状態になっているというところですよ。ご指摘のことは、次の改革プランの中で、考えていきたいと思っております。

**【委員質問】**

内容というよりちょっと参考までにお聞きしたいのですが、16 ページに、マイナンバーの活用とありますけれども、給付金とか関係で、今年は増えているかもしれません。平成 30 年度、9.1%で、令和元年度で 12.2%なのですけど、ちなみにここに出席されている市役所の職員の方々に、令和元年 3 月末の時点で、マイナンバーカードを持っていなかった方はいらっしゃるのですか。どれぐらいいらっしゃるか知りたいのですけど。持ってなかった方は、今はとられているのですか。同じように県の方でも、取得率ってというのがありまして、職員は必須みたいな形で申請があったのですけども、市民の方もそうなのですけど、やはり市役所の方も積極的に取っていただかないと、広がりはありませんかと思っております。ちょっと参考までに、お尋ねしました。

**【会長】**

四番のところでお話しされたので全体を通してお願いします。はい、どうぞお願いいたします。

**【委員質問】**

先程のマイナンバーカードの件ですけど、実は今回の給付金のことで、市民の方々もマイナンバーカードを持っていないということで騒がれた方もいらっしゃると思うのですよね。それで、マイナンバーの交付率の目標数値を何年度までの何%に、増やすためにどういう策を考えておられるかお聞きしたいです。

**【執行部回答】**

ここ 3、4 年の計画の中で、75%かと思っております。計画を立てておりますがなかなか実態は伸び悩んでいるところです。

**【委員質問】**

よろしいですか。マイナンバーカードは、持っていますけれども、今回の件でもやはり使おうとしてもマイナポータルに入れないという、もうそこから受け付けられない問題もあつ

たりして、まだまだ発展途上の部分があって、掛け声はいっぱいかかっていますけども、本当に利便性がどれほど向上するのかっていう問題と、リンクしているのだと思うのですよね。そこが解決されないとなかなかうまくいかない気がします。

#### 【委員質問】

11 ページのふるさと納税の推進なのですが、残念ながら、今年は数値が下がっている状況ですけど、他の自治体と比べたら、かなり頑張っているふうに個人的には評価しております。また今年度、制度がまだ変わるのでありますが、今後もぜひ頑張りたいと思っていますので、よろしくお願いします。

#### 【執行部回答】

ありがとうございます。ご指摘の通り昨年度は、13億6000万程度ということで、一昨年から比べるとだいぶ減少しております。その理由としては、制度が大きく変わって、経費50%以下、そういった総務省の規制がありました。そういった中で、この13億以上ということは、それなりの成果がでたと我々としては思っているところです。他市町との比較ということですが、制度が平準化されたということで、寄付額自体も平準化に向かって、もともと多かった自治体が減って、少なかった自治体が少し増えたという現象が、昨年度は起きているように理解しております。引き続き今年度も、寄付獲得に向かって努力しますので、よろしくお願いいたします。

#### 【委員質問】

直接説明がなかったので、もしわかればでいいのですが、昨年度、四番の業務執行体制の充実の時に、IoTに関するテーマを、研究中だということで、NTTとか、研修会をしたりとか、また、市町村に視察に行かれたということがあったのですけれども、その結果、何か結びついているものとか、具体的に検討されていることがあれば、教えて欲しいということが一つと、今年の4月からのゴミ出しアプリをされたかと思うんですけど、去年はちょっとまだ始まってなかったってということで、紹介のみだったのか、どういった状況だったか、使い勝手や利用者の幅など教えていただきたい。

#### 【執行部回答】

企画政策課の方から、IoTの部分についてお答えをしたいと思います。昨年度は、熊本県の宇城市、宇城市のほうは実際にRPA導入をされていました。それと福岡県大牟田市、実験的に導入をされている市に視察にお伺いしました。また、いくつかの企業の方からRPAのツールについて、紹介がある状況です。現状としましては、他の自治体の現場の声や意見を聞きながら、費用対効果も検証しながら、小城市に有効な導入のあり方を見極めていきたいと考えているところで、今すぐに導入ということには至っておりません。実際にRPAの

簡易版として、提供されているフリーソフトを、庁内の業務で実際に使ってみたりしていますが、全庁的な導入には至ってない状況です。

**【執行部回答】**

はい。市民部長でございます。先ほどゴミなしアプリということでご質問がありましたが、実際導入はゴミなしアプリゴミ出し小城市版として導入しておりますが、実際のところはまだ詳細に把握しておりません。申し訳ございません。

**【会長】**

よろしいでしょうか。他にありますか。よろしくお願いいたします。

**【委員質問】**

15ページの収支バランスの適正化のところ、今回のコロナで、どこの自治体も、基金等が減少しているということですが、今のコロナ禍にあって、今回の第4次行政改革プランの収支バランスの適正化、これは変更されるご予定なのかどうなのか、あと、一般企業でも、例えば経費削減っていう目標を立てて、それが実際の数値に表れ出すのが1年後、決算なら2年後、という形になりますので、またスピード感を持ってやらないといけないと、どこもやられているかと思えます。そういった中で、繰り返しになりますが、変更の予定があるのかどうかをちょっとお聞かせをいただきたいと思えます。

**【執行部回答】**

財政課の方からちょっとご説明させていただきます。コロナの関係で基金が減っているという新聞報道等あっておりますけれども、小城市の現状としましては、コロナ対策の臨時交付金等がきておりますので、今のところ基金が減るところまでは、現状は、まだ交付金が入ってきておりませんので、運用資金がそういったところで、減る要素はありますけれども、決算ベースで言いますと、大きな額の交付金が、国の方からいただけるようになっておりますので、大きく基金を減らすような状況ではないというところで、この収支バランスの適正化のプランを見直すというところは、今のところ考えておりません。以上です。

**【執行部回答】**

今、財政課長のほうから、今後の収支バランスについて答弁しましたけれども、確かにコロナに対する緊急的な補助金等々が各自治体へ来ているのは、事実ですね。それはあくまでもコロナ緊急対策として我々がいろんな事業を実行する上において、非常に役立つ補助金なのですけれども、今おっしゃったように、まさにこのコロナ状況の中で、この経済状況とか社会情勢が変わりつつあります。ですからそういった意味で、今後歳入減っているのは当然、今後見込めるわけですが、そういった中で歳出をどうするのかということ我々も、そ

れに入って議論していかないといけないというふうに思っています。ですからそういった意味でも、例えばその大型事業を凍結をするなど、そういった部分について、我々も協議をして、そして、ある程度、その財政の適正化、健全化をやっていかないと、このまま当たり前の事業計画そのものをしていこうということになると、大変財政は厳しくなるということで、その辺の協議もすでにやっております。

#### 【委員質問】

これは関係ないかもしれないのですが、市の職員さんが、このような災害とかあると、どうしても表立って、住民の人達と対応したりで、結構な精神面で疲れが出ると思うのですが、私たちでも、コロナ、コロナとテレビで見ていると、疲れてきてきます。そういう中、職員の士気っていうのですかね。昨年の夏からずっと災害があって、コロナがあって、今だとマイナポイントの申請だったり、いろいろ手続きをやったりすると、どうしてもわからなかったりすると住民たちがイライラ怒った感じで職員さんたちに対応すると思うのですよ。そういう時の職員さんたちの、やる気とか何か心のケアみたいことを市役所の中で何か対策をされているのかなと思って。普段の業務のはかにもいろいろしなとといけないことが増えてきていると思うのですが、その辺はどうなのでしょう。職員さんの精神的な面というところで。

#### 【執行部回答】

総務部長です。確かにおっしゃる通りですね、災害等、まだ時間外が続けば、精神的余裕がなくて、つい言葉が荒げたりする場合もあるかと思いますが、やはりそういうことはないように各職員には申しております。今、言われたように精神的な不調は確かでございます。市としましては、カウンセラーを常時、月、数回配置しまして、特にその職場の方で、管理職員が、気になる職員には、カウンセリングを受けさせたり、また産業医の方おりますので、十分とは言いませんが、特に目立つ職員につきましては、常に目配せしながらフォローしているところでございます。以上です。

#### 【執行部回答】

今、非常に大切なことを質問されたのですが、職員についてはカウンセラーのかたに、いろいろ相談をすとかいう形でやっていますけれども、今おっしゃったように、3月4月の歓送迎会など自粛状況で、課内のコミュニケーションや普段のコミュニケーションというのがなかなか取れてないことが私も気にしている状況です。それで、やっと、今月中旬ぐらいに、職員のほうから、そろそろいいのではないかという話があって、少人数ならばいいんではないかと話をしていたのですが、また、広がってきて、大阪では5人以内ということで設定されているということなのではございますけれども、ある程度の、例えば10人以内ぐらいのコミュニケーションをとるといえるのは、いいんではないかと思っております。確かにストレスが

かかっているというのも現状でございます。しかしながら、そういう状況のなかでも、この雨の状況で災害が起きないように24時間待機を行っている状況で、特に防災対策課のほうではずっとやっているという状況なのですが、そういったところで頑張っているところが頭がさがる思いです。そういう意味では頑張ってくれていると思っております。以上です。

**【会長】**

はい。ありがとうございました。他にございますか。はいどうぞ、お願いします。

**【委員質問】**

資料2の、下の第4次小城市行政改革プラン実績累計の見方がよくわからないのですけれども、まず一つは、R1年度の職員事務従事時間というのが、上の表には7841時間と記されていますが、数字がこれでいいのかということ。下の方の数字がどこから出てきたのかということ。あと、一番左の年度計のところの計というのが、何を足したのか。何を足したものがここに出てきているのかということで、非常に基本的なことで、恥ずかしいのですけれども、教えてください。……、わかりました。職員事務従事時間のところは、時間を金額にかえているということですね。あと、一番左の年度計のところは一体何を足しているのでしょうか。

**【執行部回答】**

ご指摘の年度計のところですが、右の取り組みに要した事業費・時間と、改革による効果を足した金額になっているかと思いますが。

**【委員質問】**

全体事業費……

**【執行部回答】**

そうです、すみません、足してもならないみたいです。この部分については確認させていただきます。

**【委員質問】**

左からの取組に要した事業費というのと改革による効果、というのが、足したり引いたりするものなのかなっていうところをお聞きしたい。

**【執行部回答】**

金額については確認をさせてもらってよろしいですか。

**【会長】**

今すぐには出ないようですので。時間までに間に合えばお願いします。次どうぞ。

**【執行部回答】**

先ほど委員からのお話、ゴミなしアプリということでお尋ねいただきまして、フリーアプリということで、ダウンロードがどれくらいできるのかいう、検証ができておりません。そこはちょっと、この効果がうすいというところになります。ただ、市民の方からはですね、何をいつだすのか、そういったものがよくわかりやすいということで、このアプリの向上っていうことは聞いております。以上です。

**【委員質問】**

これは言っても仕方ないということになりますけれども、13 ページと 14 ページ。他の項目とちょっと形容が違うのですよね。対市民になっているのですよね。幾ら役所の方々が頑張ったって、相手がいて、なかなか実施できない。これ下手をすると、ずっと実施、C の評価が、最後まで続く可能性もあると思って、ちょっと心配しているのですが、どういう方向でいけますか。13, 14 の受益者負担と減免。

**【執行部回答】**

はい。財政課長です。正直申し上げまして、平成 30 年度と令和元年度は、財政課の体制も整わなかったこともあり、その進捗が遅れております。すべて、15 ページの収支バランスの適正化に繋がるのですけれども、まずは、収支バランスの適正化のところで歳出の方を重点的に今まで取り組んできたところです。引き続き、そういったところを先ほど市長も申し上げました通り、大規模事業などの歳出の面についてちょっと力を入れてきたところで、今後は、今、ご指摘のあった受益者負担の見直しや、減免制度の見直しということで、一応、財政課のほうで現状の整理だけはしておりますので、令和 2 年度からは、副課長級や係長級で分科会を開催して、みんなの意見を集約しながら、いい方向に進めていきたいと思っているところです。以上です。

**【会長】**

ありがとうございました。わかりました。そろそろ時間も迫ってまいりましたが、あと、お 1 人ぐらい。

**【執行部回答】**

すみません。先程の資料 2 の令和元年度の年度計は 6,607,530 になります。下の合計の方も変わってくるかと思えます。実際は 13,458,736 です。修正をお願いします。

**【委員質問】**

この数字は何と何を足しているのですか。

**【執行部回答】**

この年度計のところは、それぞれ取り組みに要した事業費の金額と、改革による効果の金額を足したものになります。・・・・参考に書いていると考えていただければと思います。

**【会長】**

委員、いいですか。

**【委員質問】**

例えばふるさと納税での収入の分も含まれているのですか。

**【委員質問】**

たぶんふるさと納税でいくと収入と事業費があつてその差し引き金額が改革により効果におそくなっているのではないかと思うのですよ。下の合計のところはそれがダブルでカウントされている。なので、合計のこのところの欄は、あまり意味がないのではと推測しています。

**【会長】**

参考までに書いたということですよ。

ちょうど予定の時間になってしまいました。皆さんどうもありがとうございました。それでは事務局の方にお返しします。

**【事務局】**

はい、次第 4 番目、その他について、皆様の方から何かありましたらお願いしたいと思えます。ないようでしたら、閉会いたしたいと思えます。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。長時間にわたって活発なご議論・ご意見いただきましてありがとうございます。今後、今年度の事業に生かしていきたいと思っております。これをもちまして、小城市行政改革推進委員会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。